

## Q&amp;A

## 皮疹をともなう小腸壁肥厚

## 【問 題】

症例：67歳，男性。

主訴：腹痛，嘔気。

既往歴：特記事項なし。アレルギー歴なし。

家族歴：特記事項なし。

生活歴：喫煙なし。飲酒なし。

現病歴：当院来院当日14時頃に特に誘因なく左腹部の痙痛と嘔気が出現し，改善しないため18時頃受診した。便秘や下痢はなく，最終排便は当日の朝で普通便であった。12時頃に歯科で抜歯後にロキソプロフェンを服用した。その他の常用薬やサプリメント服用はない。最後の食事は当日朝食（パンとコーヒー）である。最後の生ものの摂取は2日前のサバの刺身である。10年前にも同様の腹痛発作を自覚したが自然軽快した。

現症：体温36.3℃，血圧154/90mmHg，脈拍68/分，眼瞼に貧血と黄疸は認めず。胸部：異常所見なし。腹部：平坦，軟，左腹部に圧痛あり。反跳痛軽度あり。腸蠕動音やや低下。皮膚：頸部から前胸部にかけて赤色膨疹が散見される（来院後に軽度の搔痒感を自覚）。

末梢血一般：WBC 9260/ $\mu$ l (Neut 73.2%，Eos 3.5%，Baso 0.4%，Mono 5.4%，Lymph 17.5%)，Hb 13.9g/dl，Plt 15.0万/ $\mu$ l。

生化学・凝固系検査：CRP 0.63mg/dl (基準値：0.2以下)，その他異常なし。

免疫学的検査：IgG 1518mg/dl (基準値：870～1700)，IgA 329mg/dl (110～410)，IgM 87mg/dl (35～220)，IgE 2486U/ml (87以下)，C3 98mg/dl (63～134)，C4 21.5mg/dl (13～36)，CH50 33.0 U/ml (30～45)。

尿検査一般：異常なし。

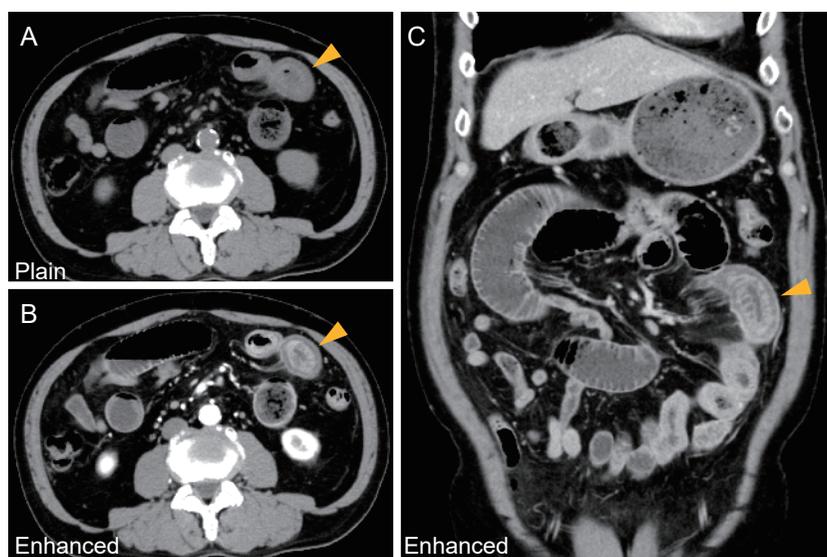
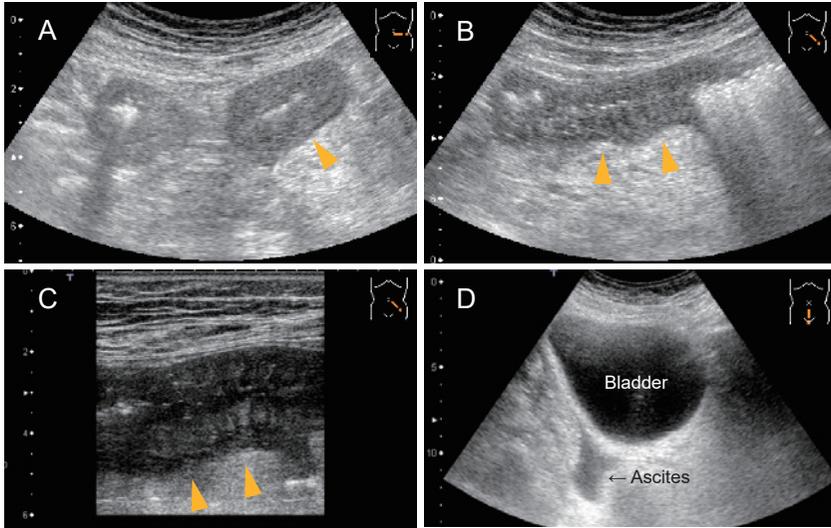


Figure 1. 腹部CT検査。(A) 単純CT水平断。(B) 造影CT水平断。(C) 造影CT冠状断。上部空腸に限局性の浮腫状壁肥厚を認め(△)，その口側腸管は拡張し液体貯留を認める。



**Figure 2.** 腹部超音波検査. (A~C) 左腹部圧痛部走査. 小腸の浮腫状壁肥厚 (壁厚: 13mm) と周囲脂肪織のエコー輝度上昇を認める (isolation sign). A, B: 5MHz コンベックスプローブ, C: 3.5MHz リニアプローブ. (D) 下腹部縦走査. 膀胱背側に少量の腹水を認める.



**Figure 3.** 皮膚所見. 前胸部に赤色膨疹 (蕁麻疹) を散見する.

来院時の腹部CT検査 (Figure 1) と腹部超音波検査 (Figure 2), 皮膚所見 (Figure 3) を示す.

考えられる疾患は？